

ピカイチ先生の
生活経営セミナー

2018年03月

物理で考える資産運用
(④ 運動量保存の法則)

ネクストライフ・コンサルティング

〒975-0038

福島県南相馬市原町区日の出町167-3

info@next-life-consult.com

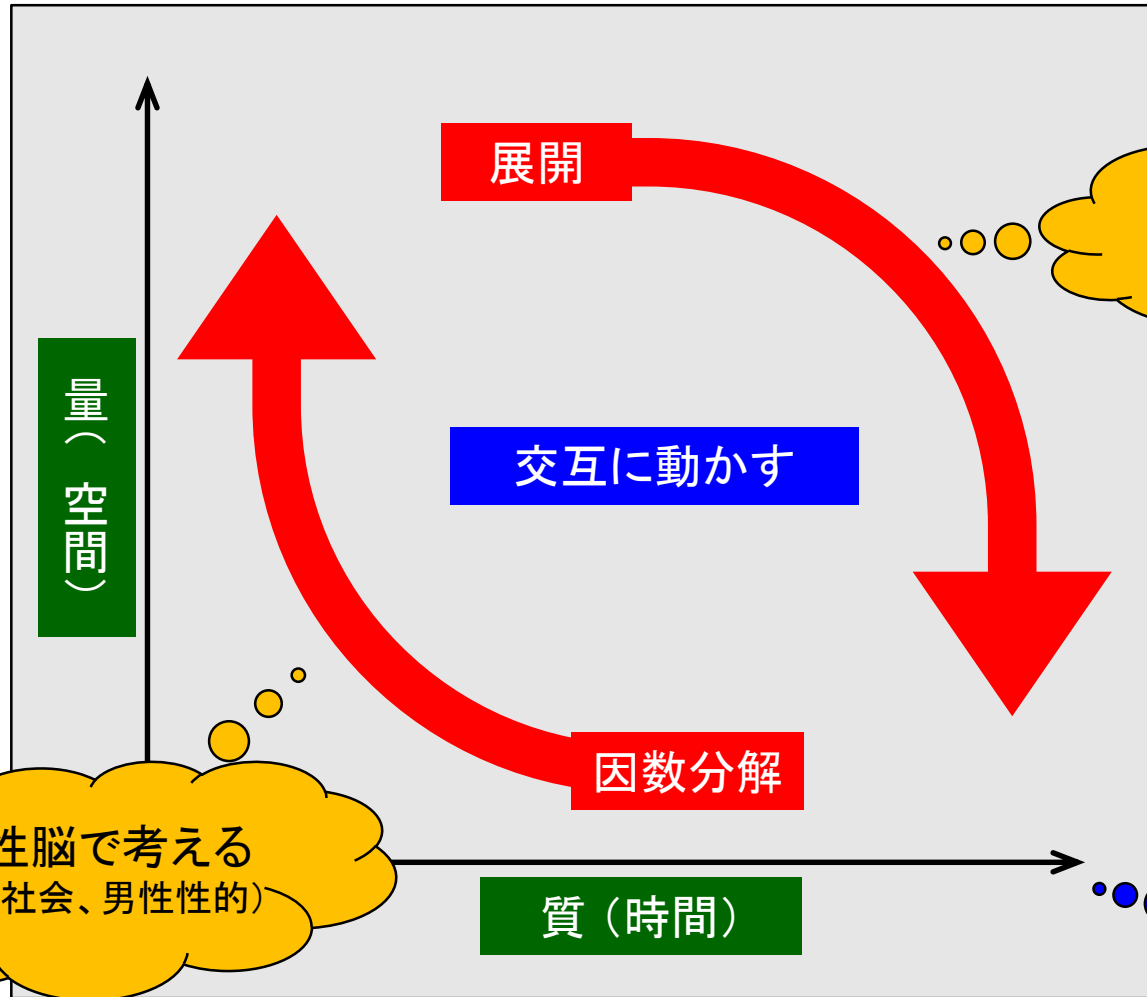


ピカイチ先生

ピカイチ先生

検索

「軸」を替える (復習①)



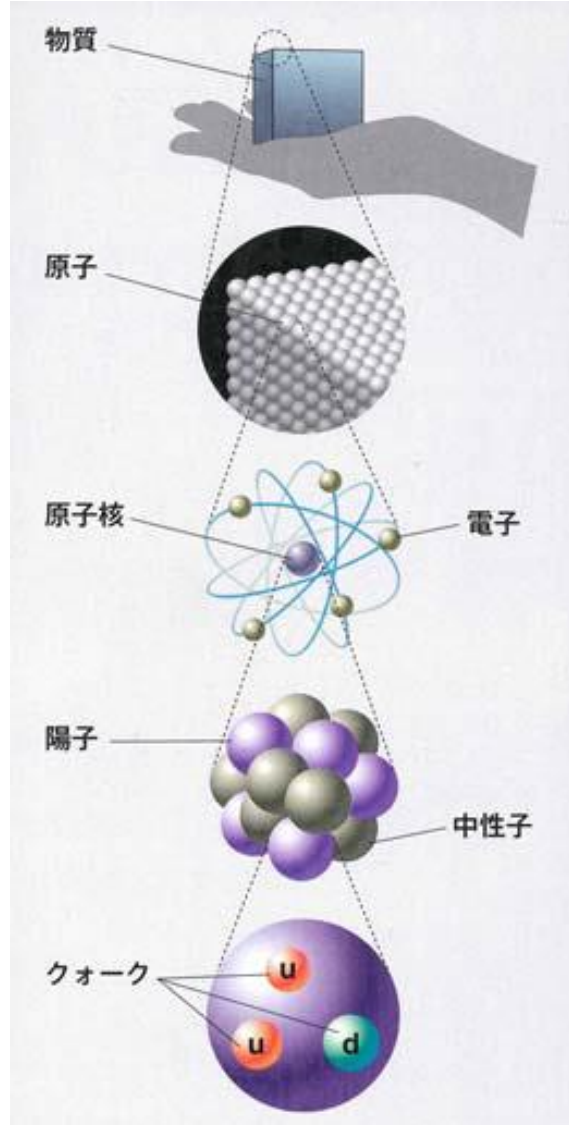
「展開」とは？（復習②）

因数分解

10^{-8} m

10^{-13} m

展開



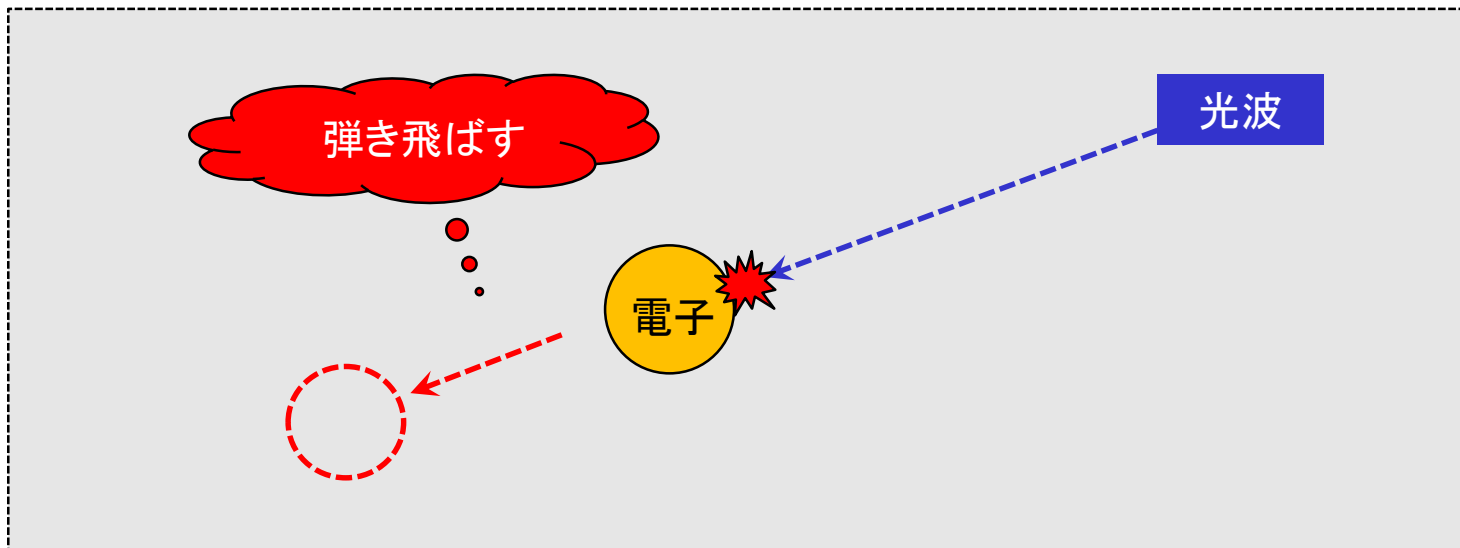
古典力学

統計力学

量子力学

「高エネルギー加速器研究機構」より

不確定性原理 (復習③)

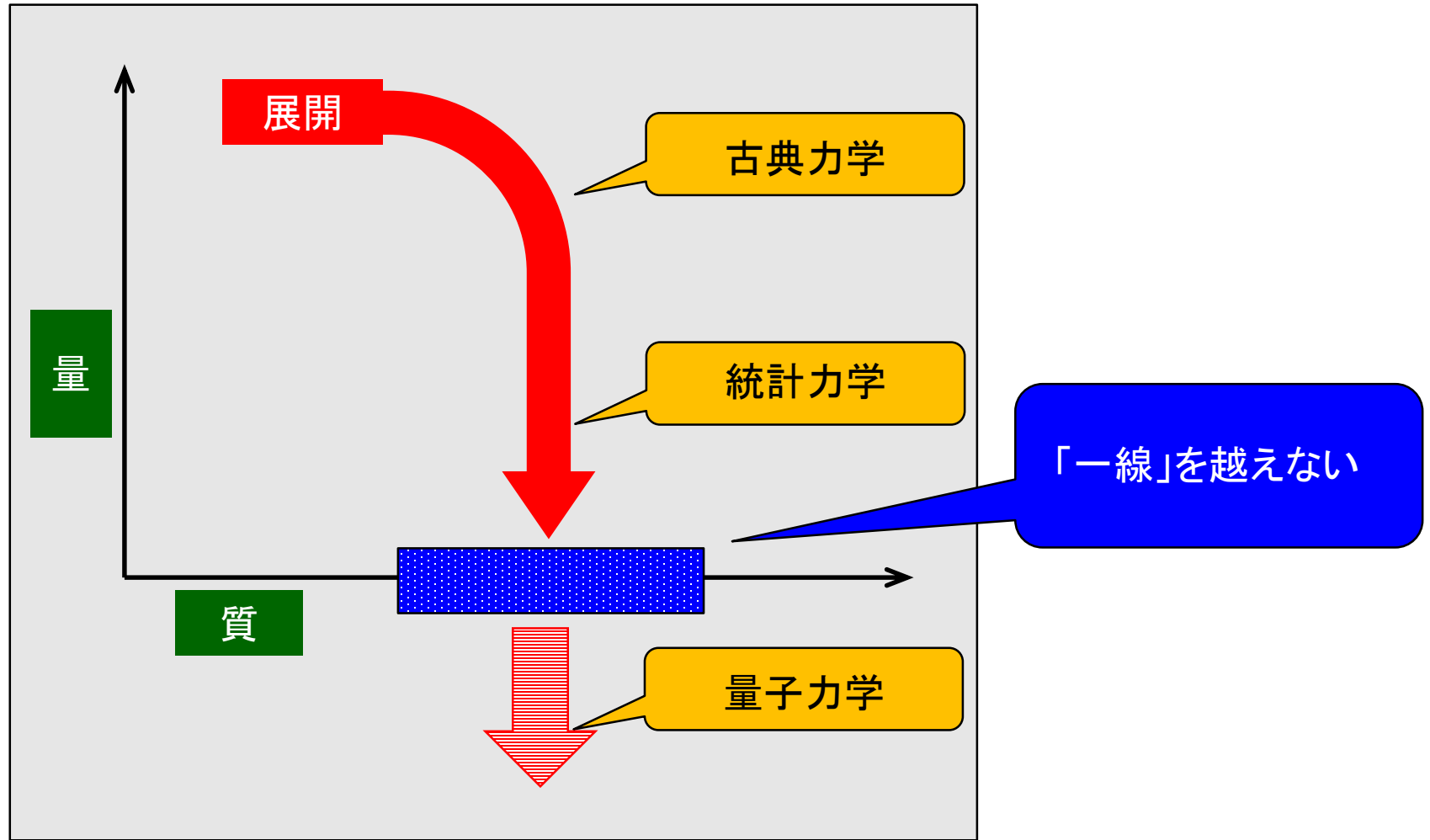


電子を観察すること自体が、
電子の動きに大きな影響を与えてしまう

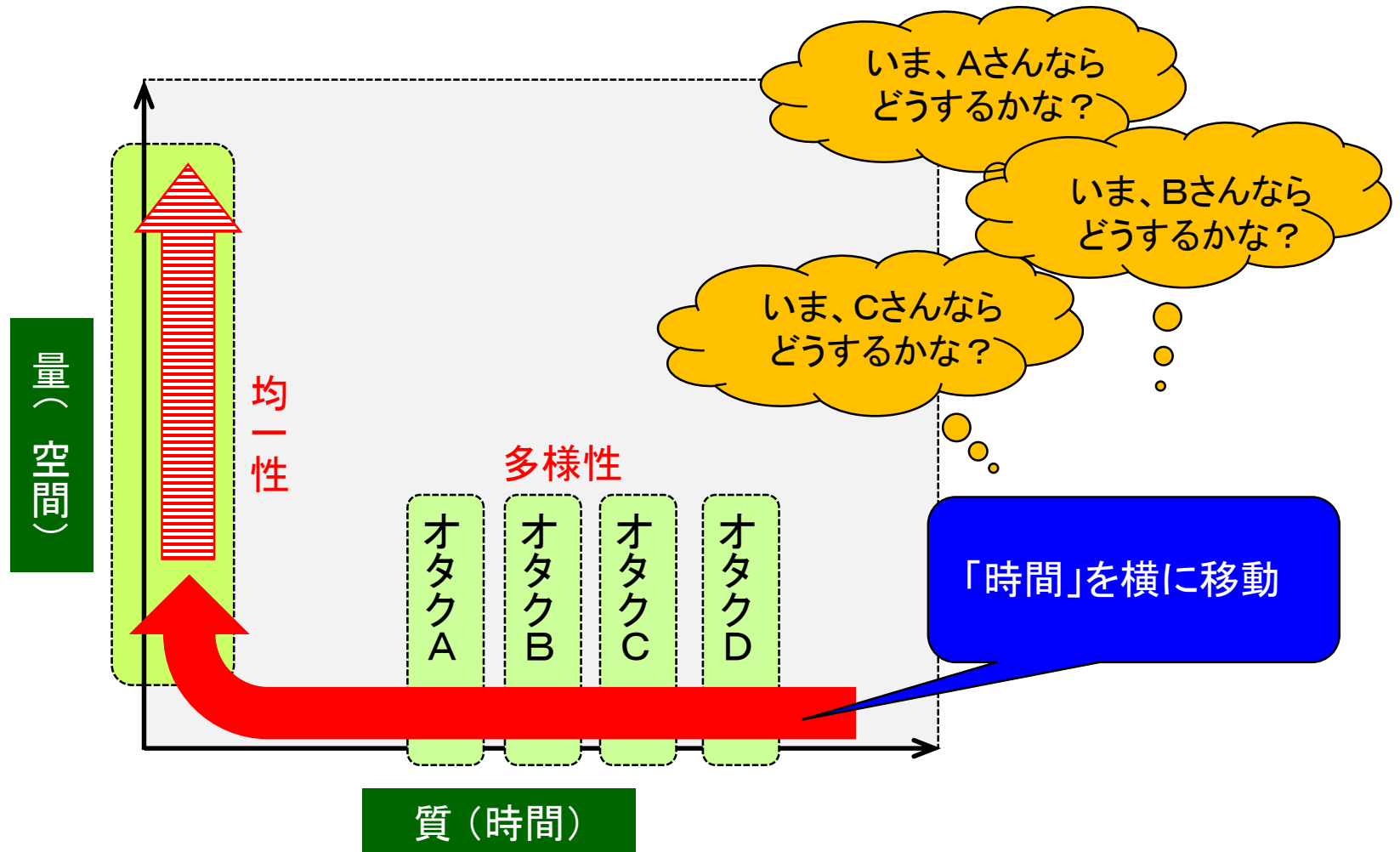
「展開」の限界
(矛盾の発生)

いじめの
アンケート調査

「一線」を越えない (復習④)



「時間」を復活する (復習⑤)



時間を横に移動する（復習⑥）

扉の横にボタンのついたコントロールパネルがあることに気づいただろう。いくつかあるボタンのほとんどはこの練習では使わないが、必要に応じてほかの機会に使用するのはかまわない。

例えば、『時間を上る(進める)』というラベルのついたボタンは未来に、その下にある『時間を下る(戻す)』のボタンは過去にあなたを連れて行ってくれる。

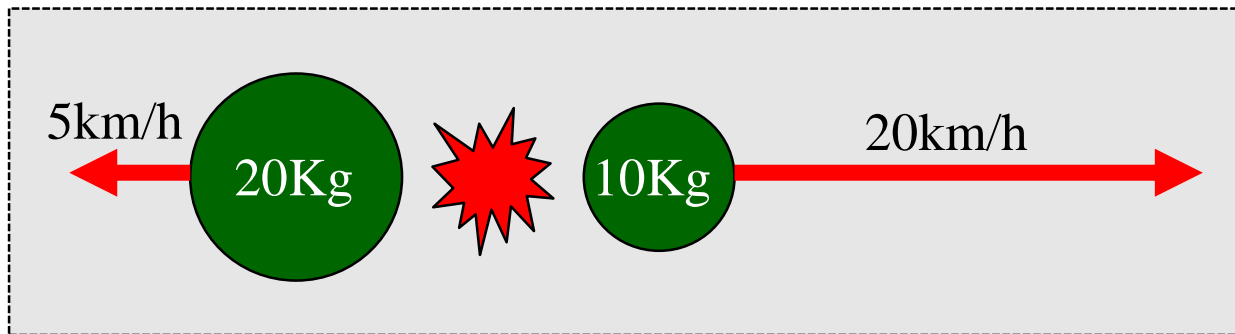
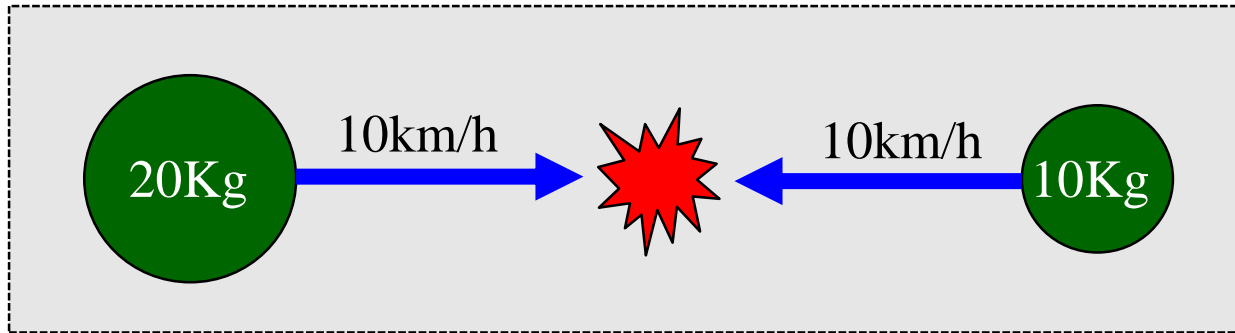
ここでは、『時間を横に移動する』というラベルのついたボタンしか使用しない。これはあなたを、あなたの分身の一人が住んでいるパラレル地球に連れて行ってくれる。

パネルのもう一方にある『空間』というボタンもあなたをパラレル宇宙に導いてくれるものだが、それにはかなりの空間を横切られなければならない。

コントロールパネルのコーナーの一つには、『解放』というラベルのついた小さなポケットがある。これをパネルからはずしてポケットに入れておこう。今までそんな例はないが、これは緊急の場合に使用する。この旅から急いで戻りたいと思ったときには、ポケットをポンと叩けば、あなたは元の世界に戻ることができるのだ。

頭脳の果て(ウイン・ウエンガー、リチャード・ポー)より

「運動量保存の法則」とは？



「質量」が大きい
⇒ 減速

「質量」が小さい
⇒ 加速

「質量」とは？

(ニュートンの)第一法則は、いかなる物体もいったん動き出すと最初の速度と最初の運動方向を永久に保とうとする「欲望」をもっており、この欲望のことをその物体のもつ「慣性」とよぶというものです。この欲望の度合いがすなわち、その物体のもつ「質量」(m)です。

荷物を満載した大型トラックの質量は大きく、二人乗りの軽自動車の質量は小さい。物体の質量は「物質の量」です。質量の大きな物体ほど同じ運動を永久に保とうとする欲望が強いために、速度の変化や運動方向の変化を強く嫌います。言い換えれば、そのような変化に強く逆らうのです。

質量の大きな大型トラックは、ブレーキをかけても速度を減らすことに逆らうために容易には減速できず、すぐには止まれません。徐々に減速して、やがて停止します。ゼロ秒間に一挙にストップすることは絶対にありえません。必ず、ある時間を要します。

一方、二人乗りの軽自動車は同じ運動を永久に保とうとする欲望(=質量)が小さいために、加速や減速に対して強い抵抗を示しません。大型トラックに比べて簡単に停止できるのはこのためです。

『 $E=mc^2$ のからくり』(山田 克哉)より

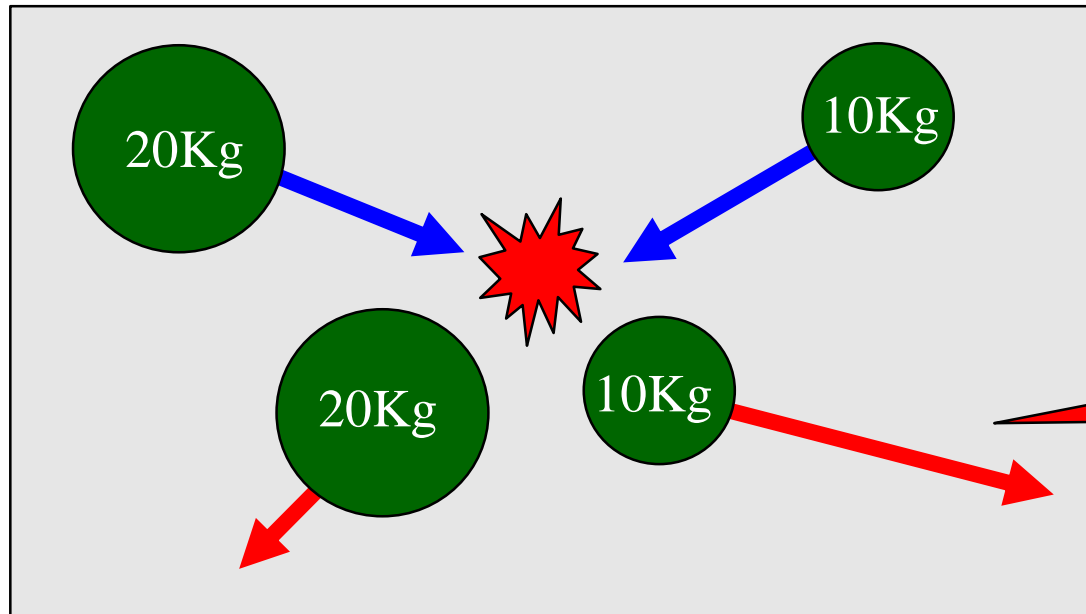
「速さ」と「速度」

[速さ] : スカラー (大きさ)

時速40キロで移動中

[速度] : ベクトル (速さ×方向)

時速40キロで北へ移動中



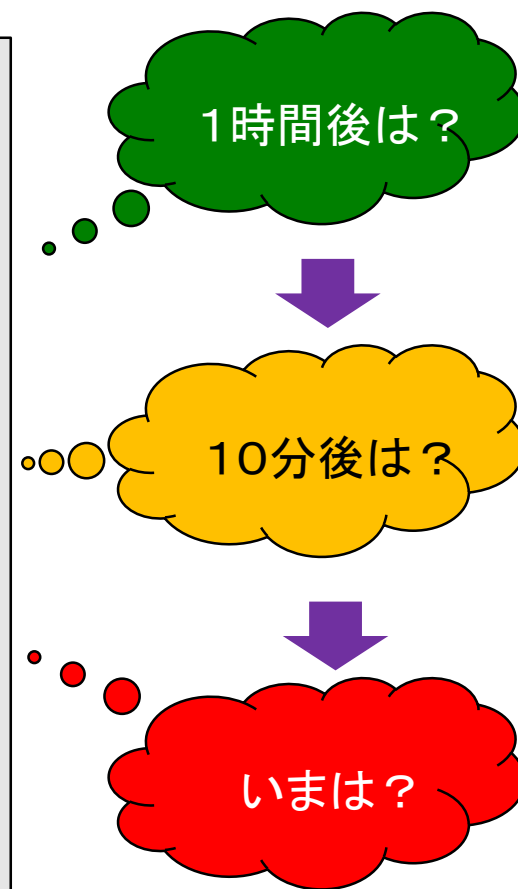
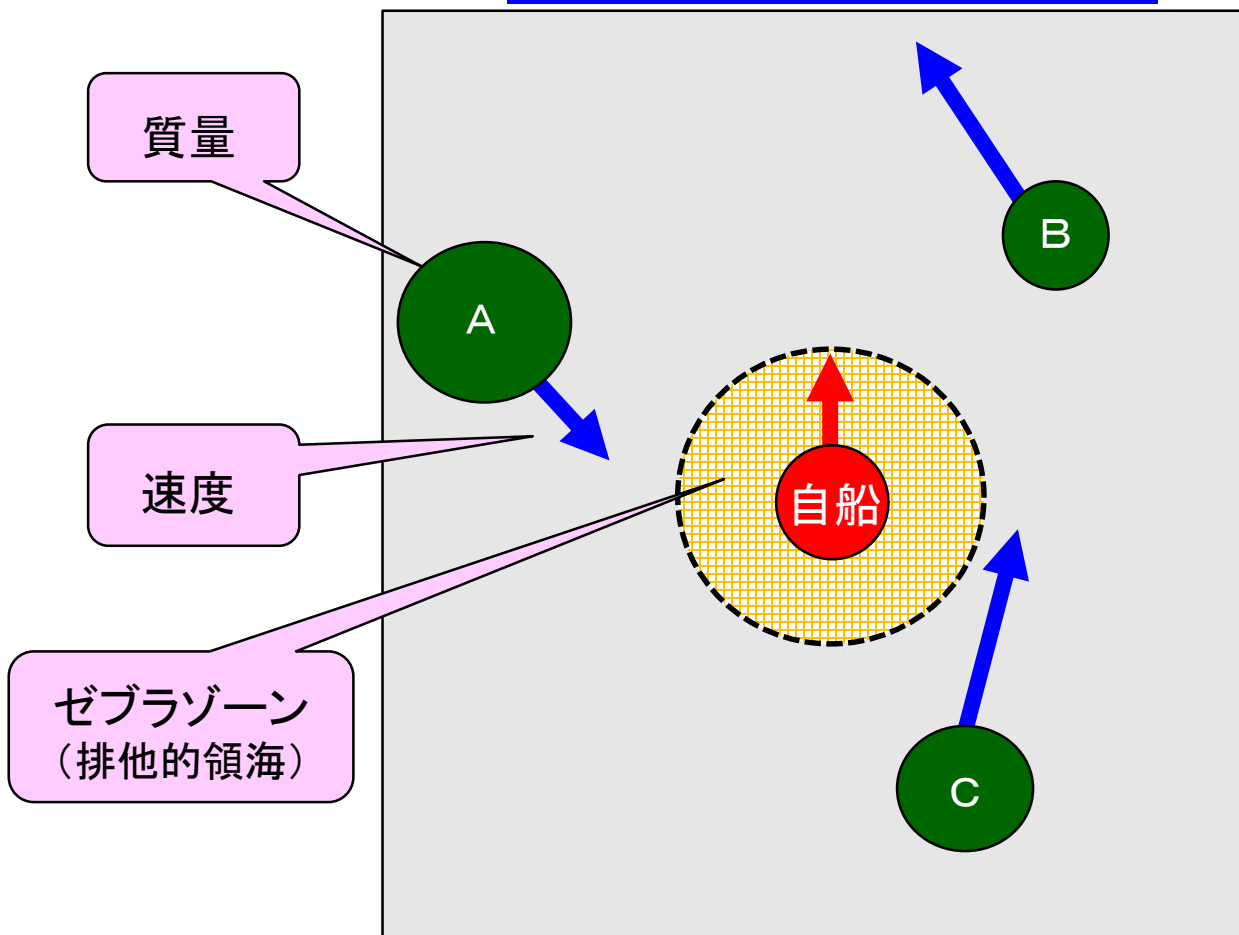
「量」

「質」

「速さ」と「方向」
が変わる

時空（空間＋時間）で準備する

未来予想図(レーダー監視)



タイミングを見極める (1/2)

ビジネスの世界でアクションを起こすのは、電車に乗る行為とよく似ています。目の前には、都内の通勤ラッシュのように、分刻みのスケジュールで電車が走っています。その中から、選ぶ市場や戦い方によって、乗る電車を選ばなくてはなりません。ただし、乗客は、その電車がどこまでいくのか、事前に知ることはできません。遠くまで行ける電車を見抜けるかどうかは、乗客の未来を読む力に委ねられているのです。

最も遠くに連れていってくれる電車を見つけて飛び乗ることに成功すれば、大きく飛躍できるでしょう。ただし、そのためには「切符」を持っている必要があります。

この「切符」にあたるのが「リソース」です。それは資金だったり、自分のスキルや経験だったり、人脈だったり、様々です。もしそれらの最低条件を揃えていないと電車に乗ることはできません。もちろん、電車によって切符はすべて異なります。

もしあなたが、何が課題でどうすればよいかかわかっていても、切符を持っていないければ、チャンスに飛び乗ることはできません。

(次頁につづく)

『未来に先回りする思考法』(佐藤 航陽)より

タイミングを見極める (2/2)

そして、もうひとつ重要になるのが電車の出発時刻、つまりタイミングの問題です。

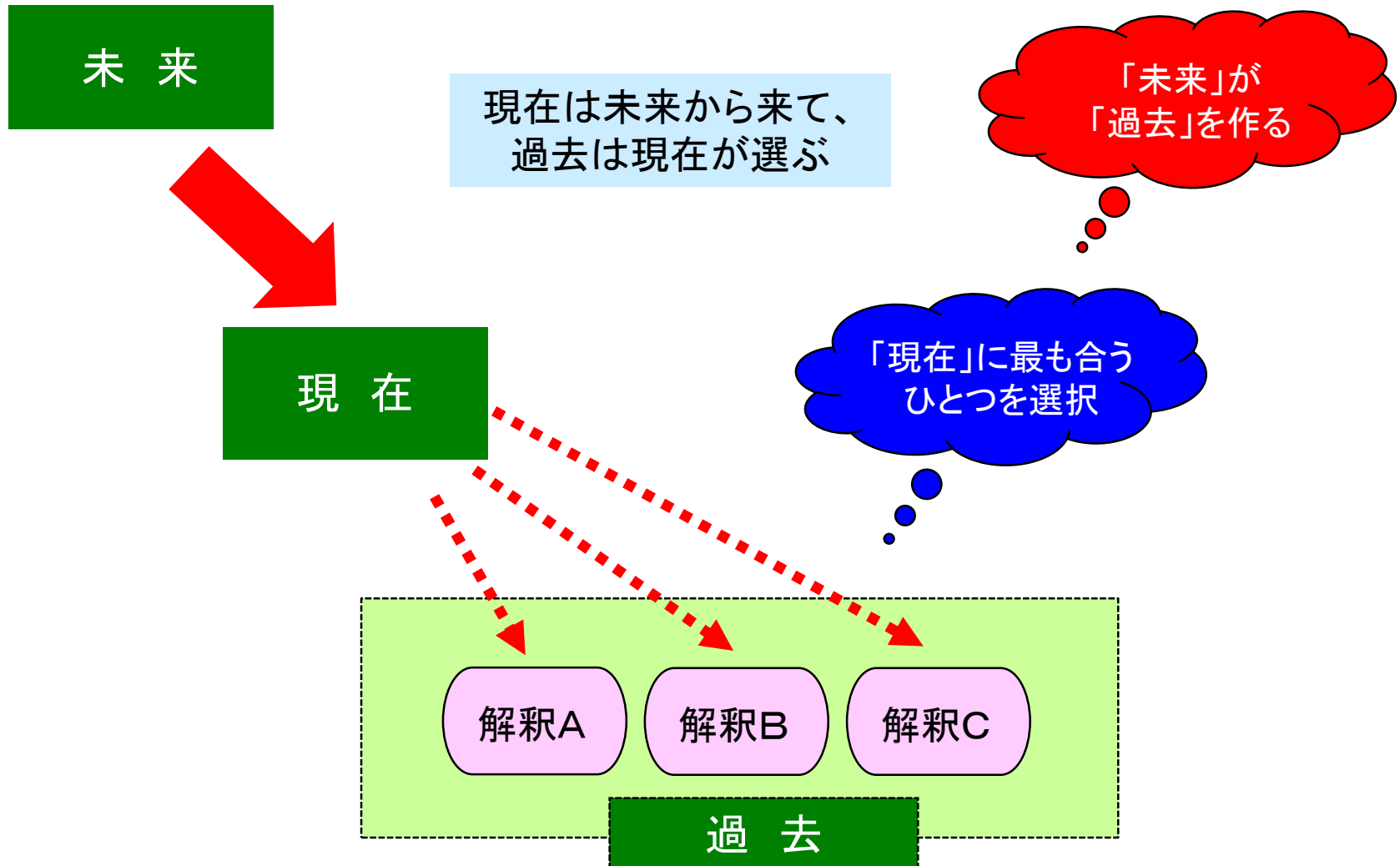
ビジネスの世界には、定められた時刻表がありません。自分の予測にもとづいて、電車がやってくるタイミングを読む必要があります。タイミングが、すべてを決めます。

だからこそ、未来が読める「だけ」では価値はないのです。この恩恵にあずかるためには、未来に向かう電車が来るタイミングで、必要なリソースを揃えて、駅のホームで待っていなければなりません。

そのためには、まず自分が持っている手持ちカードをきちんと把握し、電車が来るまでの時間の中で、足りない条件を揃える必要があります。

『未来に先回りする思考法』（佐藤 航陽）より

「時間」の流れ



「過去」とは？

このことからわかるのは、私たちの脳は、

・一つの情報に集中してしまうと、他の情報が見えなくなってしまう
ということです。

重要だと思う一つの情報に集中してしまうと、他の情報は排除されてしまうのです。
これは、とても危険です。ビジネスや人生においても同じことが起きているからです。

多くの人が一つの側面からしか物事が見えなくなってしまう、何か問題が起きて
も問題が起きていることさえ見えないのです。まさに、一つの重要性という色眼鏡を
かけてしまうのです。そしてそこにある、情報が見えなくなっているのです。

見ているものがすべてだと思わないでください。

見えているものがすべてだと思わないでください。

見えていないだけで、目の前にたくさんの貴重な情報があるのだと知ってください。
そしてそれを見えなくしているのは、みなさんが過去につくってきた「これが重要だ」
「あれが重要だ」という信念です。自己イメージといってもいいでしょう。これが色眼
鏡をつくっているのです。

『残り97%の脳の使い方』（苦米地 英人）より

衝突を回避するには？

衝突を回避するには？

他船の動きを
牽制

速度は？

質量は？

「一線」を越えさせない
(許容 / 回避)

他船は変えられない
ではどうする？

自船の動きを
制御

速度は？

質量は？

「速さ」を変える
(変量)

「方向」を変える
(変質)

機敏に変わる
そのためには？

「質量」が「時空」を曲げる

質量が時空を曲げるのです。では、時空の湾曲とはなんなのでしょう？ 時間と空間に分けて考えてみましょう。

時間の湾曲とは、「時間の伸縮」すなわち時刻の刻み方が速くなったり遅くなったりすることです。これは、単に時計が故障して時間が遅れるといったこととは根本的に異なります。この世にいつさいの時計が存在しなくても、あるいは人類が現れていなくても、この宇宙に存在している「時間」です。そのような本質的な時間の進み方が速くなったり遅くなったりすることが、「時間の伸縮」すなわち「時間の湾曲」です。

重力場の弱い空間から重力場の強い空間を観察すると、重力場の強い空間における時間の進み方が重力場の弱い空間における時間の進み方より遅いのです。つまり、重力が強い空間では時間がゆっくり進むのです。逆に、重力場の強い空間から重力場の弱い空間を眺めると、後者の時間の進み方が速くなっています(すべては“相対的”！ ゆえに相対性理論！)。

『E=mc²のからくり』(山田 克哉)より